

2023  
8月

# 患サポ通信

— ささえちゃん便り —

第 112 号



ささえちゃん

黄昏時の風の涼しさに、秋の足音を感じる今日この頃、皆様ますますお元気でご活躍のことと存じます。患サポ通信では、当院各科・部の特色や新たな取り組みをご紹介します。今号は「眼科」と「輸血・移植免疫部」と「呼吸器内科」をご紹介します。

## 眼科



当院眼科は、新生児から高齢者まで老若男女問わず、網膜硝子体、角膜、神経、緑内障、小児眼科、腫瘍等、あらゆる分野の診療を行っております。この度は緑内障についてご紹介させていただきます。

一般に緑内障は視野障害を主とする不可逆的な慢性疾患であり、中途失明の原因疾患の1位でありながらその治療は進行の抑制のみとなります。したがって生涯におよび治療を継続する必要があります。健康寿命の増加に伴い、緑内障治療はより長期におよび、QOLを保つためにも多量の点眼剤を継続しなければならず、時には失明回避のために手術を選択しなければならない例も多くなっております。

当院への緑内障での紹介患者さんを振り返ると、通院継続の困難、点眼治療アドヒアランスの困難、入院や術後通院の困難、大きく3つの困難に悩む方が多いと感じております。点眼治療に関しましては、点眼手技等の指導や配合点眼剤の導入などにより、点眼本数の負担を減らしつつ治療効果の向上が得られる方も少なくありません。中には手術を回避できた方もいます。また、手術に関しましても、低侵襲緑内障手術（micro invasive glaucoma surgery/MIGS）の普及により、従来よりも手術時間・入院期間が大きく短縮されつつあり、当院でも適応症例に関しては積極的に実施しております。これらの治療の結果、通院間隔の延長等、通院継続面での負担軽減にもお役に立てることもあるかと日々診療しております。

今後も緑内障と向き合う方々の一助となるべく、日々努力させていただきます。関連病院の皆様におかれましても、何なりとご相談いただけますと幸いです。

眼科

## 輸血・移植免疫部



当部では貯血式自己血輸血のための貯血、自己フィブリン糊の作成、末梢血造血幹細胞採取等、輸血・移植関連検査などを実施しております。

各診療科から、輸血、移植、細胞採取に関する相談を受け付けています。医師・看護師・検査技師が丁寧に応えます。必要時には多職種でのカンファランスを行います。また、管理業務などが主体のため、一般外来は行っておりませんが、セカンドオピニオンも可能です。

他院からも、患者さんやご家族、主治医の先生からの相談にのり、方針などについて意見をフィードバックすることができます。遺伝子検査やHLA検査、各種の抗体検査などについては、検体をお送りいただいて検査のみの受託を行うことも相談に応じますので、お気軽に御連絡下さい。治療については紹介元への逆紹介を含めた対応になります。

輸血・移植免疫部

## 呼吸器内科



呼吸器内科では、18名のスタッフで呼吸器疾患全般に対する診療を行っています。その中でも、特に肺がん、COPD、気管支喘息、間質性肺疾患には力を入れて、数多くの国内外の数多くの臨床試験にも参加しています。

福島県は、他県と比較して呼吸器専門医の人数が不足していますが、県内の医療機関と密接に連携した診療を行っています。COVID-19の診療では、県内のCOVID-19診療に携わった施設と定期的に会議を行い、治療方針を相談したり、診療における問題点などを共有することで福島県のCOVID-19診療に貢献してきました。また、会議を通じてCOVID-19に関する新たな知見を世界に発信することができました。

大学附属病院での呼吸器内科診療に求められる様々なご要望に応えられるように、今後も県内の医療機関と連携して診療を行って参りたいと思います。

当科の詳細については、下記のHPをご覧ください。

<https://fmu-pulmo.jp/>

呼吸器内科